

# ありがとうの灯中

学校便り第3号

令和6年6月13日

福井市灯明寺中学校



毎日100~200。皆さん、何の数字か分かりますか？これは、現在ウクライナで起きている戦争で亡くなっている人の数です。2022年2月24日、ウクライナ戦争が起きて約2年半が経ちましたが、この愚行は依然として続いています。何の罪もない民間人がドローン爆弾等によって殺され、多くの若者が戦闘員として戦場に駆り出され、その未来ある尊い命が毎日奪われています。想像してみてください。毎日サイレンが鳴り響き、突然大きな爆音と共に目の前が真っ白になり、耳鳴りと共に大きな泣き叫ぶ声を耳にするのです。そして、目の前で大切な家族や仲間が血を流し、痛みを訴えながらその息がだんだん弱くなっていくのです。毎晩電気も水もない暗黒の環境の中で、いつ爆弾が落ちてくるか分からない恐怖に怯えながら夜を過ごすのです。この文を読んでその映像を想像できた人は、おそらく言葉を失うと思います。まさに、非道です。残酷です。そして、絶対に自分には起きて欲しくないと願ったと思います。しかし、今現実として、ウクライナや世界では戦争が起きているのです。なぜ人は、いつまでも同じ過ちを繰り返すのかと強い憤りを感じます。

実は先日、石川県能登半島地震のボランティアへ参加した人と会う機会がありました。その方のお話では、地区によっては復興があまり進んでいないらしく、今もなお約2,800の方が避難所生活を余儀なくされているそうです。それゆえその方は、ほぼ毎週のように時間があるときは、福井県立大学から出発するバスに乗り、珠洲市へ瓦礫の撤去作業に行かれているとのこと。その方の話を聞きながら、私は正直恥ずかしい思いになりました。なぜなら、上記のウクライナのことも、そして、能登半島地震のことも、私にとってどちらも「過去のこと」になっていたからです。完全に私の中では「済んだこと」になっていました。福井での毎日の安定した生活の中では、どうしても「他人事」になってしまい、「現在進行中」のこととして捉えられていなかったことに気づかされました。その方は石川の現状について、災害時のマンパワーの必要性について、実体験を通した素直な話をされていましたが、被災地の人々のために、そして、自分自身のために、汗をかくことに今を生きる意義を見出しているその方の姿勢に感銘しながら、私はその話をお聞きしていました。

皆さんはどうですか。毎日の生活の中で「自分のことだけ」に視点がいていませんか。自分の生活が楽しくないとか、つまらないとか、誰々が悪いとか、誰々のせいだとか、自分軸にして物事を見ていませんか。今あるここ福井での「普通の」「平凡な」「当たり前」の生活自体が、いかに「尊い」もので、「あり得ない」ことだということが分かれば、おのずと心の中は変わると思います。大切なのは視点を変える勇気と力をもつこと、決して自分軸ではなく他人軸で物事を多面的に捉えることができる力をもつことだと感じます。青少年赤十字の祖であるアンリデュナンが唱えた「気づき、考え、実行する」ことができれば、上記のボランティアの方のように、自分の生活をより豊かに生き生きとしたものへ変えることができると思います。自分が変われば、周りが変わる。この方から大切な生き方を私は学んだ気がします。福井市灯明寺中学校長 佐藤 勉 (Big Ben)

## <情報モラル教室：言葉の大切さ>

6月7日(金)の6時間目に、福井市教育委員会青少年課の藤井宏彰様をお招きし、SNSに潜む怖さや使用上のマナーについて学びました。先生からは、実際に起きた様々な事例を基に、SNSは扱いを誤ると人の心を破壊する、まさに凶器となることを教わりました。途中流された女子生徒たちの動画は、実際にあり得る内容でとても説得力がありました。みなさんの中には、自分事として深く受け止めることができた人もいるのではと思います。言葉というのは、とても大切です。人の想いや考えを相手に伝え、人の心をより豊かにすることができるとても素敵なツールだと思います。ぜひ、人を傷つける武器にするのではなく、人に勇気と力を与えることができるよう、言葉を大切に遣ってくださいね。

